

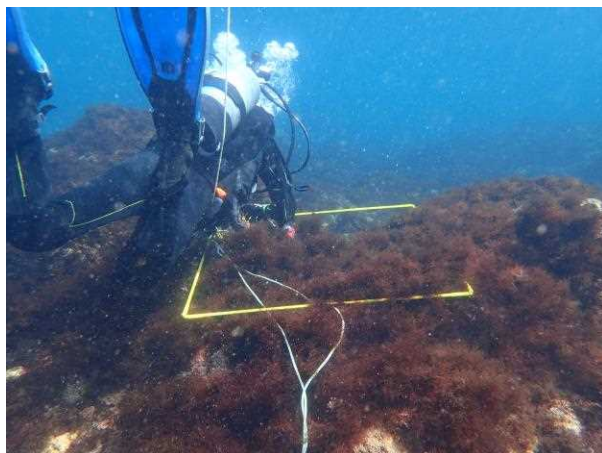


令和5年6月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

令和5年のテングサ作柄予測

令和5年漁期のテングサ作柄調査を伊豆地域の12地区39か所で、3月上旬～4月下旬に実施しました。調査では目視による観察と1㎡の範囲のテングサを採取して総重量と平均藻長を把握しました。調査の結果、漁場によって着生量に増減がみられましたが、伊豆地域全体としては、「前年並み」と予察されました。また、西伊豆全域を通してマクサが減少している傾向にありました。

テングサ漁業は、従事者の高齢化等による労働力不足や漁業利用低下による漁場の荒廃（雑藻の増加）、黒潮大蛇行の影響などの問題を抱えています。漁業者の積極的な採取により、今漁期の生産量の増加と漁場の回復を期待します。



↑ 枠取りによるテングサ調査の様子

解説：本県は全国有数のテングサ生産県で、令和4年の生産量は千葉県(142トン)、愛媛県(66トン)に次いで全国3位(40トン)です。県内では伊豆半島のみで生産され、主な産地は西伊豆町仁科、伊豆市土肥です。

熱海でヒラメ稚魚を放流

大熱海漁協（熱海、上多賀）という漁協網代支所では、4月27日に県温水利用研究センター産のヒラメ稚魚（約30mm）を受入れ、漁業者による中間育成を実施してきました。

3～4週間の育成で稚魚は順調に成長し、5月18日に熱海上多賀で、29日に網代で、それぞれ計数と放流作業が行われました。

最終的な放流尾数は3地区合計で約18,000尾でした。今後、放流魚が成長し、各地区の漁獲量が増加することを期待しています。



↑ 水槽から稚魚を取り上げる様子



↑ 放流前のヒラメ稚魚の様子

高校生が見学訪問

5月19日に下田高校の生徒30名が現場を見学に来ました。当日はあいにくの雨でしたが、室内で伊豆地域の漁業について職員の説明を聞きながら、イセエビやアワビ、カジメ等の実物を見学しました。

また、シラスの混獲物である「チリメンモンスター」を探す体験では、生徒たちは熱中して選別や同定作業を行っていました。



↑ 協力してチリメンモンスターを探す生徒たち

6月の予定 ●伊豆各地でマダイ中間育成が開始（田子5日、網代6日） ●東部地区漁業士役員会（稲取12日）
●キンメダイ資源評価担当者会議web（26日） ●キンメダイの親魚採捕、人工ふ化・仔魚飼育試験
●潜水調査（カジメ磯焼け調査 下田 南伊豆） ●藻食性魚類の駆除作業開始(南伊豆 白浜 河津 富戸 伊東)

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。